

2005年度(平成17年度)

第4回川崎市外国人市民代表者会議

会議経過



● 第1日:2006(平成18年)年1月29日

議事の経過

【2005年度の年次報告について】(全体会)

- ・事務局が資料1に基づき、2005年度の年次報告目次(案)を説明
- ・委員「最初の委員長・副委員長の挨拶と、提言のところの委員長・副委員長の挨拶の違いは何か」
- ・委員長「最初の委員長・副委員長の挨拶では、年次報告書の説明と簡単な挨拶で、提言のところは、提言の内容を含めたものを考えている」
- ・委員「内容的にそんなに新しいことがなければ、提言のところの挨拶は必要ないのではないか」
- ・委員「2年間に亘る活動経過全般に対する挨拶と、提言の趣旨を踏まえた事前説明と、2つあるのはやむを得ないと思う」
- ・委員「同じ冊子に2つも『挨拶』があるのはおかしいので、提言のところの『挨拶』は『説明』などほかの単語にしたらどうか」
- ・事務局「この目次案には『挨拶』と書いてあるが、実際の報告書にはタイトルはつけない」
- ・<採決>「2005年度の年次報告目次(案)に賛成」挙手多数 年次報告目次(案)を承認

【提言の取組状況について】(全体会)

- ・事務局が資料2に基づき、2005年10月1日現在の提言の取組状況を説明
- ・委員「A評価についたものは調査報告がないということだが、やはり継続的に調査報告が必要ではないか。また、行政の自己評価だけではなく客観的な評価も必要だと思う」
- ・委員「提言の内容によって、実際の施策化が1回で終わるものなのか、数年間持続できる内容なのかを区別しないと、A・Bだけの評価では見ることはできない」

【教育・文化部会】(部会審議)

<学習支援提言案>

- ・委員が資料3-3に基づき、学習支援に関する提言(案)について説明・確認
- ・委員「背景・理由の項目が多いので、例えば提言を1・2に分けたらどうか」
- ・委員「2001年度の提言と重ならないよう、もう一歩進めて、『子ども一人一人の背景や年齢、在日年数、能力などは全然違うので、それぞれ実情にあった学習支援が受けられる体制を作る』とした方がよい」
- ・委員「賛成」
- ・委員「小学生は生活言語と学習言語をしっかり学ばなくてはいけないが、中学生や高校生は初めから日本語で学習言語を学ぶわけではなく、母語で学んだ基礎があり、それぞれの子どもの年齢や背景などに合った支援を考えると、日本語だけではない支援も出てくると思う。『背景、年齢、在日年数に合った支援の充実』と書いておいた方がよい」
- ・委員「日本に来た子どもにはすぐに日本語指導等協力者の支援があるので、在日年数はあまり関係ないかもしれない。その代わり、一人一人の子どもの能力に応じた学習支援とするのがよい」

・部会長「『日本語を母語としない子どもが、その背景、年齢、能力に合った学習支援が受けられるようなシステムを作る』でよいが」

・事務局「一番言いたいことを提言の本文に書いて、子どもの背景、年齢などについてはその後の【背景・理由】にまとめてある。子どもの背景や年齢について提言本文に入れると、そのための【背景・理由】が必要になり、もっと修正が難しくなるのではないが」

・部会長「【背景・理由】には今まで審議してきたことがいろいろと盛り込まれているが、必要ではないものと、提言本文に盛り込みたいものをもう少し絞っていききたい」

・委員「私はこのままでよいと思う」

・委員「【背景・理由】の と はまとめた方がよい。 から までは、ここまで説明する必要があるのか。また、学習支援を行うことで進学支援にもつながるということを追加した方がよい」

・部会長「【背景・理由】の と は続いている内容なので、まとめた方がよい」

・委員「『子どもによっては母語による学習支援が有効な場合がある』のは当たり前だが、学習支援はあくまでも日本語を母語としない外国人の子どもたちが日本の学校でどうやって学力をつけていくかという問題で、母語を教えることは内容が違ふ。日本語を教えるだけでも大変なのに母語まで教えるのは子どもたちにも教える側にとっても無理なことだと思うので、【背景・理由】の は入れない方がよい」

・委員「母語を教えるボランティア活動の支援は別にして、『母語による学習支援が有効な場合がある』ことははっきり明記しておいた方がよい」

・委員「 の前半はよいが、後半部分は今回の提言の内容とは違うことなのでなくてもよい」

・部会長「 を削除することに賛成」

・委員「前半部分は残した方がよい」

・委員「総合教育センターから派遣されている日本語指導等協力者はみんな母語ができる人で、今やっている学習支援は母語で行われている。なので、それをまたあえて言う必要はない」

・委員「学校現場に行っていないので何とも言えないが、たぶん今の意見が妥当なのだと思う」

・委員「母語についての提言は過去にも出ているので、そこに付け加えた方がよいのではないか」

・委員「私も前半部分だけ残した方がよいと思う」

・委員「学習支援と二世の自国文化の問題が混同してしまっているような気がする。今回の提言に即して言えば、 は削除した方がすっきりする。母語は別に考えなければいけない問題」

・委員「後半部分を削った方がよいと思うが、やはり中途半端な感じがする」

・委員「中学生で来日した子どもに日本語で全ての学習を習得させるのはどうか。母語で学習能力を身につけることも要求されてくるのではないか。学習言語は日本語だが、それだけではないのではということ的背景に入れたい」

・委員「実際の学習支援は、母語でもやっている」

・部会長「削除する方が多数派のようだが、それでよいか。(意義なし)他に何か意見はないか」

・委員「『学年に応じた教材開発』は大切なことなので、提言本文に入れてもよいのではないか」

・委員数名「賛成」

・部会長「 を提言本文に入れることでよいか」(異議なし)

・委員「 は似ている部分がある」

・部会長「 はまとめてよいか。(異議なし)」

・委員「 もまとめて、提言本文に入れたらどうか」

・委員「 は、提言本文の2の[背景・理由]になる。それぞれの例も出ているのでまとめないで、きちんと分けてしっかり説明をした方がよい」

・委員「例を全部出すと長くなってしまう」

・委員「しかし、そのための[背景・理由]なのではないか」

・部会長「提言の2はそのままにして、[背景・理由]で をまとめてよいか。(異議なし)」

・委員「 と もまとめた方がよい」

・部会長「 と もまとめた方がよいか」(異議なし)

・委員「 もまとめた方がよい」

・委員「まとめるのは事務局に任せて、最終的に内容があるかどうかを確認すればよい」

・委員「学習支援が進学支援にもつながるといことは入れるのかどうするのか」

・委員「進学・進路はかなりレベルが高いことになるので、入れない方がよい。今は小学校5年生や6年生の授業についていけない子たちの方を重視しているのではないか」

・部会長「これまで審議してきたことを提言にまとめることが今の課題で、これからまた審議する時間はない。今から新たな項目を入れるのは難しいと思う」

・委員「 のボランティアのことは提言本文には入れないのか」

・委員「提言本分に『システムをさらに充実』と書いてあるので、そこに含まれるのではないか」

・委員「[背景・理由]にはできるだけ具体的なことを入れておいた方がよい。なぜこういう提言ができたのかを補足するために、今まで話し合ってきたこととは違うことであっても、[背景・理由]に入れていくべき」

・委員「 はそのままでのよいのではないか」

・部会長「 は提言にはせず、[背景・理由]の中でまとめるということによいか。(異議なし)」

・委員「[背景・理由]の並べ方はどうするのか」

・委員「順番は正副委員長部会長会議で決めればよい」

・委員「 はどういう提言にするのか。 は[背景・理由]に残して、提言3として『教材の開発を行う』と入れたらどうか」

・委員「今まで教材を重視した提言はなかったので、『教材開発』という言葉は提言に入れたい」

・委員「教材開発は誰が行うのか」

・委員「それを私たちは市にお願いするのではないか。現場に関わっている人が集まって教材についていろいろな意見を出し合えばよいと思う。」

・委員「提言の文を『生活言語(日常生活に必要な日本語)』と『学習言語(学習に必要な日本語)』というふうにしたらどうか」

・委員数名「賛成」

【社会・生活部会】(部会審議)

< 市政参加提言案 >

・部会長「資料4-2の前の部会審議のまとめについて補足・修正等はあるか。(意見なし)」

・委員が資料4-3に基づき、市政参加に関する提言(案)について説明・確認

・委員「がよくわからないので、説明してほしい」

・部会長「日本では、外国人に地方参政権を与えることによって日本の国政が意図的にゆがめられることがあるのではないかという意見がある。それに対して、国会を中心とする国政だけでは民主的な社会を営むことができないので、それぞれの地域では自分たちの問題を自分たちで解決する地方自治が必要だという考えがある。そういう意味で、地方参政権は国政とは別の次元の問題であり、国に対して文句を言ったり何か工作をするということとは違うと思う」

・委員「ここは日本の国で、外国人は自分の国を持っている。その外国人が日本の国に対して参政権を得ようとするのは内政干渉にはならないのか」

・委員「我々は外国人だが、私の発言が私の母国の政府の意見になる訳ではない。それは、地域住民としての意見であり、かつ、国家に対してではなく地方自治の問題についてだけの意見なので、内政干渉にはならない」

・委員「国で決まったことを私たちは地方で実行している訳だから、地方の問題ではあっても国が認めてくれないとどうもすっきりしない」

・委員「『国が国に対して行う内政干渉』という言葉をあえて使わなくても、地方参政権は市政参加するための1つの権利として、ここまで大きく言わなくてもよいのではないか」

・委員「国と国との問題のような感じがするので、この言葉は必要ではない」

・委員「国と国との問題ではないから、この言葉が必要」

・委員「地方参政権は私たちの生活に直結する問題について発言することであって、国政に対する内政干渉ではないと思う。オープン会議でもそういう発言があり、そういう心配をする意見も出たのであえて載せたのだと思う」

・委員「が問題なのであれば、どう変えたらよいのか」

・委員「最初に読んだとき、国と国との問題のように感じたので、誤解されるかもしれない」

・委員「とをまとめて1つの文章にしたらどうか」

・部会長「しかし現実には、この問題の主要な反対意見は内政干渉になるからというもののなので、だからが出たのではないか」

・部会長「時間の都合もあるので、をそのまま出すか、削除するか、またはとをまとめるか、3つで採決してもよいか」

・委員「最終的な提言は全体会議でまとめるので、ここで決めないで、これについていろいろな意見が出たことを全体会議で報告し、他部会の委員の意見も聞いて決めたらどうか」

・<採決>「についての意見交換を付言して、この市政参加提言案を採択し全体会議に提出してよいか」挙手多数 市政参加提言案を承認

<生活・情報提言案>

・委員が資料4-4に基づき、生活・情報に関する提言(案)について説明・確認

・委員「外国人登録窓口に置くポスターの案はどうなったのか」

・部会長「施策の実行過程で、事務局を通じてサンプルとして出すことは可能なのではないか」

・委員「提言本文にはないが、【背景・理由】のに入っている」

・委員「日本語がわからない人は、どうやって資料があることがわかるのか」

・委員「最初の意見では、どこで情報がもらえるか知らせる多言語の案内ポスターを作るということだったが、具体的にどういうポスターを作るかという話はしなかったので、市からそのような要請があって第5期代表者に呼び掛けてもらえれば協力するということがよいのではないか」

・委員「のポスターは、多言語のものなのか」

・部会長「なるべく簡単な文章で多言語化されているものが必要ではないか」

- ・委員「いつもポスターは日本語なので、特に情報関連では多言語でということは何度でも強調したい」
- ・部会長「例えば の後に『表示の多言語化にもっと工夫が必要である』と付け加えたらどうか」
- ・委員「それは何の表示のことか」
- ・部会長「情報があるということの表示」
- ・事務局「 を『情報コーナーの表示を多言語にするなど、もっと目立つようにしたり』、 を『多言語の案内ポスター』としたらどうか」
- ・部会長「 を『情報コーナーの表示を多言語化するなど、もっと目立つようにしたり』、 を『多言語の案内ポスター』としてよいか。(異議なし)他に意見はないか」
- ・委員「 は『各区の区役所の外国人登録窓口で』と書いた方がよい。提言3の本文も『身近な場所』ではなく『区役所』と入れた方がよい。そうしないと相談窓口を民間に任せてしまったり、我々が考えているものと違うものになってしまうかもしれない」
- ・委員「[背景・理由]はあまり詳しく書かなくてもよいが、提言本文に『各区の区役所』や『市民館』などの言葉を入れた方がよい」
- ・<採決>「提言3の本文を『国際交流センター以外に、区役所など身近な場所にも』と修正する」挙手多数 提言3本文の修正を承認
- ・部会長「他に意見はないか」(意見なし)
- ・<採決>「いくつかの修正を含め、生活・情報提言案を全体会議に提出してよいか」拍手

生活・情報提言案を承認

<住民投票制度についての意見交換会の報告>

- ・部会長「今日の会議の前に住民投票制度についての意見交換会があったので、委員長から報告をお願いしたい」
- ・委員長「総合企画局からの説明の後、検討委員会2名も参加し、意見交換会を行った。中心になったのは前回の提言で1年以上市内で外国人登録している人に投票資格を与えるべきとやっている問題で、日本人と同じように外国人も市内在住3か月で投票資格を与えるべきという意見や、それでは日本に来たばかりの人も入ってしまうので、日本に数年住んでいて市内在住3か月の人にしたらどうかなどいろいろな意見が出た。年齢については新しい制度なのだから、日本人も外国人も18歳からにしたらどうかという意見が多かった。

<その他>

- ・委員「医療関係など審議ができなかったテーマについてはどこかで報告されるのか」
- ・部会長「調査審議で出された意見の中で報告する」

【各部会の報告】(全体会)

- ・教育・文化部会正副部会長が部会の審議内容について報告
- ・委員「部会では提言の3として『教材の開発を行う』としたが、教材開発も『システムの充実』に含まれるのではないかという意見もあった。全体会議で意見を聞きたい」
- ・委員「生活言語も学習言語も、外国籍や外国で暮らした経験のある子どもにとってはバイリンガルな指導が理想で、母語と切り離して考えることには問題がある。また母語はアイデンティティと結びついており、単なる言語指導ではない。そうした観点から、学習支援の分野に母語との関わりを残しておく必要がある。 は残すべきではないか」
- ・社会・生活部会会長が部会の審議内容について報告
- ・委員「『国が国に対して行う内政干渉とは違う』という部分は、重くて、戦争のようなとても強い感じがするので、『国が国に対して』を『外国人市民が日本に対して』に直したらどうか」
- ・委員「国会などでは外国人に地方参政権を与えると国政にも『口出しされるのではないかと、また地方参政権についての審議が中断している。しかし、我々は住んでいる市政に対して意見を言うのであって国に対してではない。この文は、それを内政干渉では

ないとはっきり言っているのだから、このままでよい」

・委員「地方参政権の問題は、ここで決まる問題ではなく国が定めるものと考え、『国が国に対して行う内政干渉とは違う』と明言してしまうのはどうか。ここだけ強い感じを受ける」

・委員「『国が国に対して』の部分が強すぎるのであればそこだけなくして、『地方自治に関することであり、内政干渉とは違う』としたらすっきりするのではないか」

・委員「賛成。この部分は『内政干渉』の定義づけに入れたものだが、ない方がすっきりする」

・委員長「提言の修正等について、今決めてしまうか、または、正副委員長・部会長会議に委ねてもらって、その修正案を次回の会議で決定するか、どちらがよいか」

・委員「今出された意見を踏まえた修正案の作成を、正副委員長・部会長会議に委ねてもよい」

・<採決>「提言の修正等については次回の会議で決める」挙手多数

次回の会議で決めることに決定

・委員長「生活・情報についての提言について何か意見はないか」

・委員「多言語ポスターは賛成だが、窓口に来られない人も大勢いる。オープン会議の宣伝で日本語教室に行ったときに、ここでチラシを配布した方が効率がよいとおもった。窓口に来なくてポスターを見ない人に対してどうするかということも考えた方がよい」

・社会・生活部会長「今回は区役所でフィールドワークをしたり、『外国人の皆さんへ』の多言語化や相談窓口について検討した範囲で提言をまとめた。区役所の窓口に来ない人へのコンタクトの必要性はわかるが、具体的な提言としてはどうすればよい判断しかなる」

・委員「新しく来た外国人は法律で登録の義務があるので、外国人登録窓口には必ず行く」

・委員長「区役所に行く人のためにはポスターがあるのはそれはそれでよい。区役所に行かない人のためには、例えばインターネットによる広報についての意見もあったが、それを議論する時間がなく、提言に載せるところまではまともらなかった」

・委員「『子どもによっては母語による学習支援が有効な場合もある』という部分は残す必要があると思う。部会では多数決で削除となったが、なぜ削除になったのか説明をした上で、正副委員長・部会長会議で検討をお願いしたい」

・委員「部会で削除になったプロセスを聞きたい」

・委員「母語が必要ではないということではない。ただ、今回は日本の学校で日本語の教育を受ける中での学習支援をどうするかということ提言している。母語については別の問題ではないかということで削除した」

・委員「例えば、『これはめがねと言います』と教えるときに『君の国では何て言うの?』と聞いてあげて子どもが答えられたら、学習はもっと進んでいくと思う。そういう心配りがほしい」

・委員「現実に、日本語を全然知らない子どもには、その子の母語で教えている。それでも取って入れるべきなのか」

・委員「母語については、確かに今回の提言との関連性はないが、意味として、エッセンスとしては残しておいた方がよい。第6期の人たちに引き継ぐという意味でも大切だと思う」

・委員長「今全体会議で出された意見や部会審議の議事録などを見て、正副委員長・部会長会議で判断し提言案を作りたい。最終的な提言は次回の会議で決定する。それでよいか」(異議なし)

【市の審議会等委員の活動報告】(全体会)

・オープン会議実行委員会について実行委員長が報告

・かわさき市民祭り実行委員会について実行委員長が報告

・ニューズレター編集委員会について副編集委員長が報告

・委員「寄せ書きは何文字くらい、どんな内容のことを書けばよいのか。」

- ・副編集委員長「レイアウト案を見て、それぞれ自分で長さを考えてほしい。内容は何でもよい」
- ・委員長「日本語だけに限るのか」
- ・委員「いろいろな言葉で書いたらきれいではないか」
- ・委員長「外国語だと読めない場合が多いかもしれないが、本人が書きたい言葉でよいのではないか。この後の編集委員会でもう一度話し合ってみよう」
- ・外国籍県民かながわ会議意見交換会について委員長が報告
- ・文化財団について委員が報告

【その他】(全体会)

< さよならパーティについて >

- ・委員長「第5期の会議も次回で終わりなので、さよならパーティを開催することを提案したい。」
- ・委員「せっかくのパーティなら、居酒屋などでやった方が気分が変わってよい」
- ・委員長「開催案は、我々だけでなく傍聴者や経験者も交えて、ここでパーティを行うという案」
- ・委員「カラオケなどをして盛り上がるパーティにしたい」
- ・<採決>「さよならパーティの開催案に賛成」挙手多数 開催案承認
- ・委員長「さよならパーティの担当者になりたい人は挙手を」
- ・挙手: ガファル アルタフ、姜 珠淑、佐藤 リリア、スリーダ ラーダー、知念 ジョアンナ
- ・委員「第5期代表者会議の口座には多文化フェスタの残金も入っているのか」
- ・委員長「今までの活動で使ったお金と入ったお金が全て入っている」
- ・委員「パーティとは別に、2年間を振り返る反省会をやりたい」
- ・委員長「個人的に企画してみんなに呼び掛けてみてほしい」

(午後5時3分閉会)

● 第2日: 2006(平成18)年2月19日

議事の経過

【2005年度の年次報告について】(全体会)

- ・事務局が資料1に基づき、2005年度の年次報告(案)を説明
- ・委員長「提言については、議題の2として後ほど審議するが、それ以外の部分について変更等の提案はないか」
- ・委員「調査審議の意見のまとめの部分だが、教育・文化部会の分がまだ記載されていない段階で承認するかどうか審議するのはいかがなものか」
- ・事務局「意見のまとめについては、社会・生活部会の分をサンプルとして載せたが、基本的には毎回の会議に提出した部会審議のまとめの資料を整理したものとなる。次の正副委員長部会長会議で作成される最終案を代表者全員に送付するので、そこで確認をお願いしたい」
- ・委員長「部会審議のまとめは、会議の都度確認しているので問題はないと思うが、もし何か抜けていることなどがあれば、最終案が送られた時点で意見を出してもらいたい。修正意見については、正副委員長と部会長で検討し最終報告として確定することとしたいが、それでよいか」

・<採決> 2005年度の年次報告(案)に賛成」挙手全員 年次報告(案)を承認

・委員長「なお、報告書に載せる代表者の活動状況については、各代表者から事務局にアンケート用紙を提出してください」

【提言について】(全体会)

・副委員長が資料2の提言1を読み上げ

・委員「教育・文化部会で2年間話し合った内容が背景・理由の中に十分に盛り込まれていると思う」

・委員長「これまで主に教育・文化部会の審議に参加してきた副委員長から、正副委員長部会長会議での審議経過などを報告してください」

・副委員長「母語による学習支援については、部会では今回の提言には盛り込まないということで意見が一致したが、全体会議での意見も参考にして、正副委員長部会長会議で検討を行った。その結果、重要な問題ではあるが、提言を実効性のあるものとするためにはポイントを絞ったほうが効果的であること、母語教育については過去の提言でも取り上げられていて、新たな視点からの提言としてまとめたり、背景・理由に書き込む場合でも説得力のある説明とするには審議が十分に行われていないことから、提言には入れないことで皆さんに理解していただけるだろうということになった」

・委員長「提言1については、質問や意見がなければこれで確定としてよいか」

・<採決> 「提言1に賛成」挙手全員 提言1を承認

・副委員長が資料2の提言2を読み上げ

・委員長「この提言は社会・生活部会の審議から出されたものなので、社会・生活部会長からコメントしてください」

・社会・生活部会長「市政参加は外国人市民にとって権利であると同時に義務であると思う。その意味で審議会等への参加と地方参政権という2点についてまとめた提言ができたことを大変喜ばしく思っている。審議会等への参加については外国人市民をお客様扱いしないでほしいということであるから、参加する外国人市民の側にも準備が必要になる。また、地方参政権について、“内政干渉”という言葉の取扱いであるが、異論のあることを無理に書くよりも、市政参加の原点・原則に立って訴えていく方がよいということになった。最後の補足的に付け加えた地域活動への参加については、難しい問題であるが次期の代表者会議でも今後の課題としてアプローチしてもらいたいと思う。

・委員「論理的にまとまっていてよいと思う。ただ町内会の件は、外国人だけを特別に、という逆効果となることも考えられるので慎重な検討が必要だと思う」

・<採決> 「提言2に賛成」挙手全員 提言2を承認

・副委員長が資料2の提言3を読み上げ

・委員長「社会・生活部会長から、提言をまとめた背景について説明してください」

・社会・生活部会長「区役所訪問などのフィールドワークを通じて、外国人情報コーナーの改善についてと、過去の代表者が作成した「外国人の皆さんへ」というガイドブックについての2つが提言の中心になっている。この2点については業務のマニュアル化が望ましいと思うが、提言としてはやわらかい形でまとめた。「外国人の皆さんへ」については、これからも代表者会議で更新が行われるようお願いしたい。相談窓口については、今後も外国人市民の増加が予想されるので、身近な多言語相談窓口ができればよいという願いを込めた」

・委員「全体的にトーンダウンしているが、それがよいか悪いかは意見が分かれると思う。内容のことではないのだが、広報ポスターの案を代表者会議から出すという件は、今後どのように進めるのか」

・委員長「ポスターについては部会の中で話があり、提言の背景・理由でもそのことに触れているが、ここで協力の意思表示にとどめて、それを受けて行政がどのような対応をするか任せればよいのではないか」

・委員「ポスターを必要としているのは我々外国人市民なので、自分たちが作って提案した方がよいと思う」

・委員「業者に印刷を頼んで作るとなれば時間もかかるが、区役所によっては手作りで多言語表示を行っているところもあるので、参考にするとよいと思う」

・委員「提言はこのままでよいと思うが、情報を伝えるアイディアについて、残りの1か月でできることがあれば協力してもよい」

・委員長「個人ではなく代表者会議として提案するとなると、会議で話し合って決定しなければならないが、第5期は今日が最後の

会議であるので、これについては第6期以降の作業になる」

・事務局「個人的に案のある方は事務局に預けてもらい、今後参考にさせていただきたい」

・委員「内容はワンセンテンスあればよいので、年次報告の最終確認の時にみんなの意見を聞くことができるのではないかな」

・委員「ポスターの件は、全体会議で話し合われていないので状況がわからず、賛否の言いようがない。外国人自らがやることに意義があると思うが、進め方については不明なことが多い」

・委員「日本語ポスターであれば区役所の職員が作れるが、多言語化しなければならないので、その際には代表者会議との協力体制ができればよいと思う」

・委員「情報を伝えるというのがどんなに難しい問題であるかがわかった気がする。改善のためのアイデアを出すことを簡単に考えていて、予算のことなどは考えていなかった」

・委員長「ポスターについてはいろいろな意見があり、部会の中でも十分に審議したものではないので、時間的に提言に入れるのはむりだということでも了解してもらいたい」

・委員「提言に入れる入れないということではなく、部会でやろうと言ったことについて、やらないならやらないときちんと確認したい」

・委員長「代表者会議でやると決定したことは報告書に書くことになるのだから、提言に入れられないということは、代表者会議としてはできないということになる」

・委員「背景・理由にはポスターのことが入っているのだから、今後の代表者会議に任せればよいのではないかな」

・委員長「今後の代表者会議、または第5期のメンバーも個人的に協力することとしていきたい」

・<採決>「提言3に賛成」挙手全員 提言3を承認

・委員長「第5期の3つの提言が確定した。この2年間で自らテーマを出し合い会議審議のほかにもフィールドワークなどを行ってよい提言がまとまったと思う。皆さんに感謝します。」

【市の審議会等委員の活動報告】

・ニューズレター編集委員会について編集委員長が報告

・多文化フェスタ実行委員会について実行委員長が報告

・委員「フェスタ当日、帰るのが早すぎたと本部から注意を受けたのか」

・実行委員長「帰ったわけではないが、自分たちのブースが完売したので、ブースを片付けてしまった。今回は、次の日がオープン会議だったので、参加するかどうか迷ったが、次回は目的とそれにかかる時間などをよく考えて決めようがよい」

・成人式企画実施委員会について委員長が報告

・青少年問題協議会について委員が報告

・委員「協議会に参加しても青少年問題について具体的にかかわることがなかったということだが、それは相手方の態度によるのか。それとも時間の制約や外国人であるということでも自ら積極的にかかわらなかったということなのか」

・委員「有識者という立場で全体会に参加したが、実際には小委員会のメンバーにならないと具体的な内容にかかわることはできない。全体会では発言する機会がなく、代表者会議として今後どういうふうにかかわっていけるのか、難しいと思う。」

・委員「意味のない会議に参加しても仕方がないので、“外国人も参加している”というためだけに利用されているのだとしたら、代表者会議としても検討したほうがよい」

・委員長「経験から言って、慣れというものがあり、1年目は発言もしづらいし、意見を言っても断られるので意味がないかなと思ったが、言いつづけているうちにわかってくれることもある。外国人が審議会に参加する機会はあるだけたくさんあったほうがよいし、参加する外国人も、もっと努力しなければならないと実感している。第6期代表者の参加については、そのときのメンバーが決めることであるが、参加したほうがプラスになると思う」

・委員「多文化フェスタについて、会議のスケジュールを決める時には、イベントの日程も参考にしたいほうがよい」

【その他】

- ・委員長「第5期の最後の会議なので、一人ずつ感想を伺いたい」
- ・委員「2年間があったという間に過ぎてしまったが、たくさんのことを勉強させてもらった。また、大勢の友達ができ、大変よかった。
- ・委員「提言がまとまってよかったと思う。この2年間正直なところ、いろいろな気持ちがあった。資料が多くて、一生懸命に読んで参加しても会議についていけない時のがっかりした気持ち。でも、1年経って私だけではないことに気がついた。それで、勉強会を開いて資料と一緒に読むとか、それもひとつの案だと思った。親の立場の人は、子どもが一生懸命勉強しても成績が上がらないときを経験していると思うが、それと同じで、努力したつもりであってもそうならない。お互い外国人であるのに、それを忘れていてメンバーがいるのではないかという気持ちもあった。もっと審議しやすい方法があったのではないか。また、この会議はマイクもあれば、記録もとっているしすごく堅い。もっとお互いの意見を自由に言い合うことができたほうがよかったのではないかと思う。このような会の運営は大変難しいが、例年どおりレールに乗ってすすめていることについても考えてほしい。オープン会議の流れなども形が決まっていて、アイデアを出してもどこかでなくなってしまう。市内視察や市民祭りなどの行事も、初めてでもわからないまま手を挙げている。多文化フェスタなどで交流できるのはとても嬉しかったけれど、一番大事なことは提言なので、その時間を勉強会やフィールドワークに使った方がいいかもしれないと考える。イベント参加は共生のまちづくりに参加することにはなるけれど、代表者会議のPRにはなっていない。ただ、よい審議をするために代表者同士が交流することはとても大事なことになるので、会議がはじまって早い時期にメンバーだけの交流イベントをするとよいと思う」
- ・委員「社会・生活部会に参加して、わからないこともあったけれど、自分としては前よりも幅広く勉強しながらいろいろな経験ができたと思う。ただ、自分の勉強不足もあってなかなか納得できないことも結構あったので、難しさを感じている」
- ・委員「外国人の生活情報に関心があり、資料を読むだけでなく区役所などを回って自分の目で確認している。できれば以前の代表者の人たちと勉強会をつくるなどして、これからも提言していけるとよいと思う」
- ・委員「はじめて代表者会議に参加して、慣れるのにも時間がかかった。もっと積極的に自分の意見が言えればよかったと反省しているが、審議はとても楽しかった」
- ・委員「あつという間の2年間で、いろいろテーマを出して話し合ったが、いくつか課題が残っていると思う。医療についてはもう少し話したかったが、自分の努力が足りなかったと反省している。この中には続けて第6期の代表者となる人もいると思うが、大事な問題なのでテーマとして考えてほしい」
- ・委員「一生忘れることのできない、いい経験だった。反省点としては、提言というのは楽にできるものではないので、会議のはじめからもう少し審議をスピードアップしたほうがよいと思う」
- ・委員「この2年間個人的にもいろいろなことがあった。先ほどイベントでPRしても影響はないのでは、という意見があったが、私は学校で何千人という子どもたちに伝えている。もっとPRをした方がよいと思う」
- ・委員「今日が最後だと思うと、複雑な気持ちである。委員長など役員のご苦労に頭が下がるとともに、大した協力ができず、完全燃焼しなかったことが悔やまれる。この会議の10年の歴史、そして皆さんが川崎市のために一生懸命に考えているということ、メンバーの一人としてとてもよかったと思っている」
- ・委員「代表者会議は10年を迎え、赤ちゃんから少年になったところだと思う。代表者になる前にも会議を傍聴したことがあるが、自分が参加して、部会にもいろいろ違ったやり方があるのだな、と感じた。みんなで話し合っただけで素晴らしい提言ができたと思う」
- ・委員「最初のころ、どうして代表者になりたいのかと聞かれて、“相談窓口をつくってほしい”と答えたが、今日最後の日に同じことを言う。今は“私たち”と言えるけれど、私たちの願いとして、ぜひ相談窓口をいろいろな区役所につくってほしい。いつも仕事の帰りに会議に参加していたので、皆さんと一緒にできないこともあったと反省している」
- ・委員「発言できなくて残念、悔しいと思うこともあったが、学ぶことも多く、いろいろとチャンスが与えられて嬉しかった。会議というと緊張してしまうが、国際理解教育に何度か参加させてもらっているいろいろな体験をすることができた。私でもいいのかと思いつつ代表者になって、日本語をもっと勉強しなければと思った」
- ・委員「自分はあまり組織的に動く人間ではないのだが、この2年間とても勉強になった。自分だけ勉強になるのでは会議の本来の目的とは違うかもしれないが、これまでの人生の中で非常に大切な2年間ではないかと思う。私は日本生まれ、日本育ちなので正直言って、自分は本当に外国人なのか、と思うこともあった。会議で気になったのは、審議会や行事への参加のための打合せや勉強会に比重がとられて、肝心の本会議の中身が薄くなってしまいうケースがあったことである。メインの会議をもう少し大切にする姿勢が必要ではないか」
- ・委員「自分の思ったことをうまく言葉にできなかったことが申し訳ないと思っている。代表者会議ではいい意見がたくさん出ているので、これからはこれらの意見をどう実行していけるかだと思う」
- ・委員「4年間会議に参加したが、自分や周りの外国人が困っていることを気軽に自由に話せる場だった。言いたいことがなかなかうまくいえないこともあったが、気持ちは届いていたと思う。日本に来たばかりの外国人の子どもたちの教育問題が提言にまとまって、とても嬉しい。今後も誰もが住みやすい町をつくるために協力したい」

・委員「外国人であることを意識して意見を言う難しさと、少しの楽しさを感じた2年間だった。会議の時間が足りなくて、フィールドワークや講師を招いての勉強会などが不足していると思う。オープン会議や行事の参加は準備が大変だが、そこで得たものが次の会議に生かされていると感じた」

・委員「2期にわたって会議に参加した。以前は友達がいなかったが会議に参加して友達が増え、私の後ろには2万7千人の外国人市民がいると思うようになった。4年間で私に何ができたかとも思うが、自分の視野がどれほど広がったか、信じられないくらい嬉しい。前は自分のことを外国人とだけ思っていたが、今は自分を川崎市の、地域の一員だと考えている。素晴らしい提言をまとめるためにみんなで苦労したけれど、これからも人生の宝としてこういう素晴らしいチャンスを大切にしていきたい。代表者の任期は終わっても地域の主人公としてこれまで以上に努力していきたい。会議に残るメンバーには、外国人の抱える問題は提言してもすぐに解決するというものではないので、住みやすい川崎を作るためにこれからも努力してほしい」

・委員「2年前この会議に参加しようと思ったのは、そのころアザラシが住民票をもらったという話題があって、税金を払っている私が住民票をもらえないのはけしからんと、そういう問題意識からだった。しかし、会議に参加した一番のメリットは、留学生として日本に来て、日本人と結婚した私は、限られた世界にいて限られた問題しか見えていなかったのが、多くの人と話をすることにより、自分の無知を知り、人によっていろいろな問題があることを知ったことである。会議では言いたいことは言ってきたので、言い足りないことはない。提言を読むときれいにまとまっていて、事務局が苦労したと思う反面、うまく動かされたかなという気もする。どちらがいいかはわからないけれど、また、2年間ニューズレターの編集をして、何を載せるか事務局とのやり取りがあったが、行政と対立するのではなく、うまく付き合っ提言を生かしていけるとよいと思う。今後、日本に長く住む外国人が増えていくが、外国人と日本人が話し合い、一緒になって徐々に問題を解決していくしかないと思う」

・委員「4年間会議に参加して、全然知らない世界を垣間見たようで、たくさんのことを学び、感じた。今後は提言を出した一人として、地域社会で自分のできることをやっていきたい。よい提言を出すためにはお互いを理解しあうことが重要だと思うので、会議以外にもいろいろなことを一緒に経験できたことを嬉しく思っている」

・委員「教育についての悩みを抱える母親として教育・文化部会の部会長を引き受けたが、どうやってメンバーをまとめていけばいいのか、無難く考えてしまった。しかし、一生懸命子育てしてきたのと同じように、一生懸命情熱を持って取り組めば、皆さんが支えてくれると思ってやってきた。皆さんと一緒に提言をまとめることができたので、今後これを実現するために、自分にできることがあれば役に立ちたいと思う」

・委員「一人ではできないことも、大勢であれば大きな力になるのではないかと思います、この会議に参加した。提言が早い時期に実行されることを切に願いながら、また提言した側の人間としての責任を今後もっていききたいと思う。会議に参加できる私たちは恵まれており、一人ひとりが意識を高く持って、どうしてよいかかわからず悩んでいる多くの人たちのことを真剣に考え、力になってあげられるようでありたい」

・委員「代表者会議に第1期からかかわってきた。何度か耳にしたのは、この会議は堅くて意見が言いづらい、日本語力が十分でない人には特に、という声である。もう少し発言しやすい雰囲気にする必要があると思う。また、会議で多くの行事に参加し、得るものもたくさんあったが、そのためにメインの問題について話し合う時間が削られてしまうというデメリットもある。行事への参加はメンバーで話し合っ決めていくことだが、この点を最初に説明しなければならないと思う。審議テーマとして、個人的には地方参政権と法廷通訳の問題について話がしたいと思っていたが、法廷通訳については話し合うことができなかった。今回委員長を務めたが、本会議以外に正副委員長部会長会議に参加する時間を作るのが大変で、普通のサラリーマンには難しい。こういったことも含めて、代表者会議全体のあり方をもう少し検討する必要があるのではないかと。また、この10年間で多くの提言がだされたが、その実行について行政と外国人と一緒に検証する仕組みがあるべきだと思う。今後も会議とは違った形で川崎市に貢献できればと思う」

(午後4時55分閉会)

